



受賞した今田氏

同賞は、自然科学分野で優れた研究成果をあげた女性研究者を表彰するもの。受賞研究の気候変動と異常気象の要因分析に関する研究。今田氏は、高精度かつ高解像度・大規模なアンサンブル気候シミュレーションを用いることで、異常気象

## 異常気象と温暖化の関連を分析 猿橋賞に今田由紀子東大准教授

一般財団法人「女性科学者に明るい未来をの会」(会長・中西友子東京大学名誉教授)は4月20日、東京都内で記者会見を開き、第46回猿橋賞の受賞者として、東京大学大気海洋研究所准教授の今田由紀子氏を選出したと発表した。

同賞は、自然科学分野で優れた研究成果をあげた女性研究者を表彰するもの。受賞研究

題目は「近年の気候変動と異常気象の要因分析に関する研究」。

今田氏は、高精度かつ高解像度・大規模なアンサンブル気候シミュレーションを用いることで、異常気象

における温暖化などの影響の分析を行う「イベント・アトリビューション(EA)」手法を独自に発展。2018年に発生した西日本豪雨が、世界の平均気温が約1度上昇することと豪雨の発生確率が約3倍にまで高まった事例であることを明らかにするなど、特有の複雑な気象現象があり、異常気象の要因の分析をすることが困難であると考えられてきた日本で発生した豪雨について、地域スケールで温暖化の影響の分析を可能にしたこと等が評価された。

記者会見において今田氏は、「猿橋賞を受賞してきた先生方の背中を追いかけながら研究し、いつまでもたっても追いつかないという感覚でいた。まさか受賞できるとは感慨深い」と喜びを語ったほか、「まだまだ理解できていない異常気象がたくさんある。長い周期の気候変動によるローカルな異常気象への影響が明らかになる時代が来ると思うので、それに対してEAを用いて研究を進展させたい」と意欲を示した。

なお、贈呈式及び受賞記念講演は、5月23日に東京・丸の内の子日本工業倶楽部で行うとしている。